現代人は、学べ！本当の武士道

——なくてはならぬ人となれ——

人間としての覚悟から、自我にめざめ
自己の役割を覚える。
地下百尺底の心を以て、世に立ち事に当れり。
良知・知行合一・格物致知を問う。

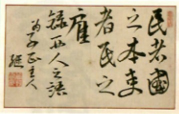
人の世に生きていくということは、苦しいことも、うれしいことも
いろいろあるものだ。その苦しいことに耐えなければ、何ごとも
成し遂げられない。

（幕末の日本、越後長岡藩が輩出した風雲児・河井継之助の生涯
をたどれば、彼のめざした改革と社会がわかる）

風雲の武士

幕末という大空を駆け抜けた越後の龍

河井継之助像のエスキス
（峰村哲也画）



河井継之助の政治信条

民は国の本、吏は民の雇

河井継之助の言葉

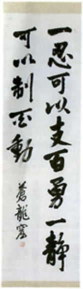
学問というものは、実行しなければ、何の役にも立たないものである。

英雄の気質を備えているものほど、なおいっそう危険にあうものだ。

法や制度は清廉で能力のある人がいて、始めてその成果が出るものだ。
人を得ずして法だけあるのは、かえって危険である。

無理には使わず、快く承知をさせて、使うものも使わるるものも、互いに愉快に仕事をするのが得。

従者の外山脩造（寅太）に
この世の中は大変に面白くなってきた。寅や、何でもこれからのことは
商人が早道だ。思い切って商人になりやい。



戦略は我心にありとした箴言

安政6年（西暦1859年）33歳の継之助は西国遊歴の旅にでる。
その旅で、継之助は何を学んだのか。旅日記「塵壺」を展示。

展示品／ガトリング砲（複製）、軍扇（河井継之助使用）
直筆の書幅・書簡、父使用の茶釜
司馬遼太郎著「峠」の原稿 他